

国際研修「漆の保存と修復」(⑤修05-09-4/5)

目 的

海外の美術館・博物館の保管する漆工品は、乾燥した環境と保存状況の違いから損傷を持つ作品が多い。また不慣れな取り扱いから破損する場合もある。そのため海外の日本美術品保管担当者や学芸員から漆工品の保存と修復についての問い合わせが増加している。それらの疑問や問い合わせは、海外において日本の修復材料・技法に関する学習や作品の取り扱いに関しての経験が少ないためといえる。本研修は、漆文化財に関する保存修復の講義および演習を通して、研修参加者に、漆文化財に関わる基礎知識を伝えるものである。

成 果

本年度は約10ヶ国、9人の参加者を募り、漆の国際研修『漆の保存と修復 2009』を開催し、漆の保存と修復についての基礎研修を行った。さらに新たな試みとして2名の1カ月実践研修『漆工品の保存と修復』も実施した。

研修日程 「漆の保存と修復 2009」2009(平成21)年9月2日(水)～9月15日(火)

「漆工品の保存と修復」2009(平成21)年9月16日(水)～10月15日(木)

研修場所 東京文化財研究所

研修対象 漆文化財の保存と修復を担当する学芸員、修復技術者、科学者および保存担当者

研修参加者 「漆の保存と修復 2009」(9名): ミクリン・クニファツ・シルビア(保存修復工房 オーストリア)、ウエブ・マリアンヌ(ロイヤル・オンタリオ博物館 カナダ)、ガスナー・ウルセル・アッダ(アントン・ウルリッヒ公美術館 ドイツ)、シェルマン・ナンケ(ビクトリア&アルバート博物館 イギリス)、コリーキアルズ・キタミカド・ジョアンナ(ワルシャワ国立博物館 ポーランド)、ドス・サントス・ヌーネス・ペティシュカ・マリア・ジョアン(美術博物館・保存研究所 ポルトガル)、ミチリ・マリナー(エルミターージュ美術館 ロシア)、アータル・イブラン・ポーラ(ウースター美術館 アメリカ)、ヘギンボサム・アーレン(J.ポール・ゲッティ美術館 アメリカ)

「漆工品の保存と修復」(2名): ガスナー・ウルセル・アッダ(アントン・ウルリッヒ公美術館 ドイツ)、レンツ・バラシュ(ハンガリー国立博物館 ハンガリー)

研修内容

日本における漆工の歴史、漆の科学と調査方法、伝統的な漆工技術、漆工品や漆塗装の修復理念の講義と修復方法の基礎実習を行った。またスタディーツアーを9月6日～9月9日の3泊4日で企画し、日本産漆の80%近くを生産している二戸市浄法寺町周辺を訪れ、日本の漆文化財の歴史と伝統、現状を視察した。引き続き行った実践研修では、東京都港区實相寺所蔵の会津松平家縁の常香盤を教材として保存修復作業に関する一連の実習作業を行った。

報告書およびテキストの刊行 3件: ・『Urushi 2009, International Course on Conservation of Japanese Lacquer: 漆の保存と修復 2009』 National Institute for Cultural Properties, Tokyo 145p 10.3・『International Training Program: The Preservation and Restoration of Urushiware: 漆工品の保存と修復』 National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo 92p 10.3・『Textbook Japanese Lacquer -Intermediate-: 研修用テキスト漆一中級編一』 National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo 143p 09.8

研究組織

○川野邊渉、北野信彦、加藤雅人、早川典子、川端冴子(以上、保存修復科学センター)